



BLUEY Owner's Manual

この度は Black Lion Audio BLUEY F.E.T. リミッティングアンプをご購入いただきありがとうございました。BLUEY は、グラミー受賞エンジニア、クリス・ロード・アルジ氏が所有する 4 台の 1176 Blue Stripe コンプレッサーの中で、独特の魅力を放つ BLUEY と名付けられた特別なユニットを製品化したものです。様々なテクニシャン達によるモディフィケーションが施された奇跡的なユニットであり、数々のヒット作品で耳にするコンプレッサー・サウンドを遂に手に入れられるのです。この製品は米国イリノイ州シカゴの Black Lion Audio でデザインおよび設計されています。全ユニットはシカゴおよびニューヨークの自社工場にて組立およびテストされています。

設計目的：機材を重視するエンジニアであれば、レコーディング時に偶然起こる特別な瞬間について知っていることでしょう。そう、予期できないマジックが起こる瞬間のことです。それは有機的に生じるもので、無作為、あるいは完全なミスから構成されます。例えば、ボーカリストがテイクの合間に口にした冗談がトラックに独自の味を加えたり、単純なルーティングのミスによって先進的なオーディオ・エフェクトが見つかったりするようなことです。これと同じ幸運が、ビンテージ機材の世界にも起こることがあります。ワインと同様に、長年に渡るメンテナンスとリペアにより、その良さが熟成されていくユニットもありますし、テクニシャン達による改良によって唯一無二のモディファイド・ユニットを生み出すこともあるのです。

抜群の耳の良さ、数十年に渡る実績、垂涎の機材の数々を有するグラミー受賞ミックス・エンジニアのクリス・ロード・アルジ氏は、4 台の 1176 Blue Stripe ユニットの所有し、その内の 1 基がボーカル・トラックに使用すると独特の魅力を有していることに気づき、このユニットを BLUEY と名付けたのです。この貴重なユニットのチャンネル数を拡張したいと考え、モディフィケーション技術に信頼を寄せている Black Lion Audio にオファーが来たのです。この BLUEY ユニットの褒め称える話に興味を惹かれた BLA ヘッド・デザイン・エンジニアのジーザス・オーティスは、その秘密を解明すべくシカゴから LA へと飛びました。細部まで精密に分析してみると、長年に渡って様々なテクニシャン達によるモディフィケーションが施されており、それが奇跡的に独特な 1176 に仕上がったことだと突き止め、クリス・ロード・アルジ氏と共同でこのモンスター・コンプレッサーを製品化したのです。それが、Black Lion Audio の Bluey です。

<クイックスタートガイド>

1. ご使用のサウンドシステムのモニターをミュートしてから、バランス XLR ケーブルを使用して、Bluey をミキシングバスまたはパッチベイに接続します。2 台の Bluey を並列(ステレオ)で使用している場合、2 ユニットの RCA ケーブルで接続します。
2. すべてのコントロールを完全左の位置に設定し、すべてのプッシュボタンの選択を解除またはオフの位置に設定します。[COMP ON] ボタンをオフの位置に設定し、ユニットをバイパスしてから、電源を入れます。
3. モニターのミュートを解除し、信号がユニットを通過していることを確認します。
4. [INPUT]、[OUTPUT]、[ATTACK]、[RELEASE] の各コントロールを 12 時の位置に設定し、[COMP MIX] を完全右に、[RATIO] を 4 にそれぞれ設定してから、[ON] プッシュボタンを押し(点灯させ)ます。メーターに数 dB 反応が出るまで [INPUT] を上げます。もう一度、信号がユニットを通過していることを確認します。
5. これで Bluey を使用する準備が整いました。

<[Attack] コントロールについての注意>

Bluey の [Attack] コントロールは、他の 1976 年スタイルのコンプレッサーとは少し違った動作をします。[Attack] ノブを左(反時計回り)に回すとアタック時間が早くなり、右(時計回り)に回すと遅くなります。この方が、ボリューム・ノブを左に回すと音量が下がり、右に回すと音量が上がるような感覚で、より直感的に操作できると考えています。

- ・アタック：連続可変 20uS ～ 800uS
- ・リリース：連続可変 1200mS ～ 50mS

<Bluey 500 シリーズのバッファリングについての注意>

Bluey は他のコンプレッサーにはない入出力バッファリング回路を搭載しているため、入力が予想より高くなることがあります。この余剰ゲインは、Bluey をコンソールのインサート・ポイントに直接挿入する場合に便利です。また、コンソール・インサートとしてオリジナルの Bluey を使用する場合の挙動をモデル化すると同時に、Comp Mix コントロール調整時の安定したレベル・バランスを確保する役割も果たしています。

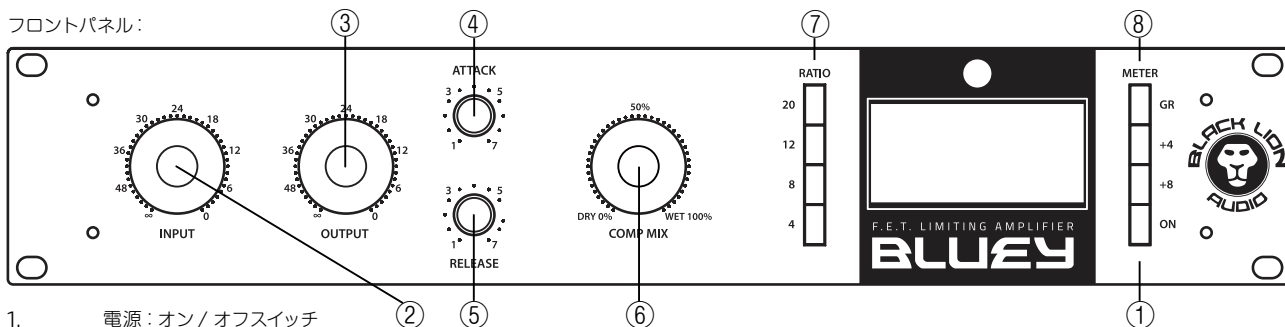
<ステレオリンクについての注意>

ステレオリンク経由で Bluey のペアを動作する場合、まず両ユニットの設定をマッチさせます。リンクされているのは内部のディテクター回路であり、(フロントパネルの) コントロールではないためです。1976 年スタイルのコンプレッサーの設計上の制約から、外付けのバッテリー駆動式バランスボックスなしで 2 つのユニットが 100% マッチすることはありません。バランスボックスがない場合、完璧なステレオマッチングを実現するために入出力コントロールに若干の調整が必要かもしれません。

<技術仕様>

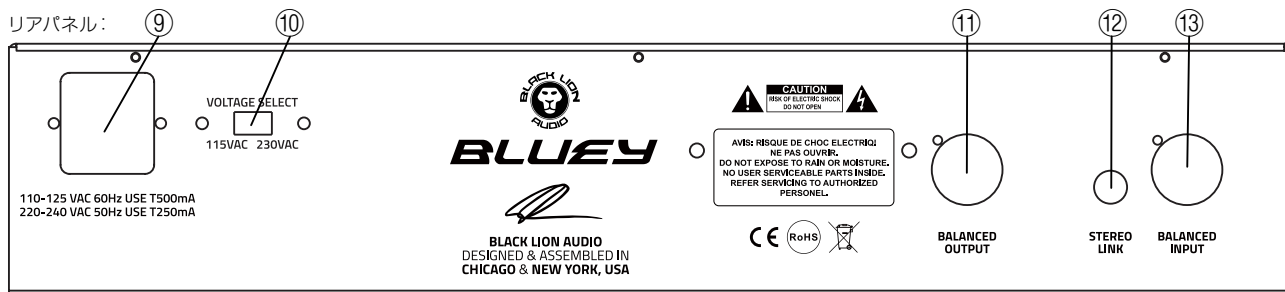
アタック：	連続可変 20uS ～ 800uS
リリース：	連続可変 50mS ～ 1200mS
レシオ：	プッシュボタン：4:1、8:1、12:1、20:1 および任意の組み合わせ
電圧：	115VAC、230VAC、リアパネルで切替可能
AC 主電源入力：	IEC320-C14 標準プラグ
製品サイズ：	438mm x 88mm (2U) x 250mm
質量：	8kg

フロントパネル:



1. 電源: オン / オフスイッチ
2. 入力コントロールポット: スレッシュOLDを設定し、コンプレッサーが動作を開始するレベルをコントロール
3. 出力コントロールポット: メイクアップゲインをコンプレッション済み信号に適用してコンプレッション中の信号ロスを補正
4. アタックコントロールポット: ユニツが入力信号に反応するのにかかる時間をコントロール
5. リリースコントロールポット: コンプレッサーがコンプレッション済み信号をリリースするスピードをコントロール
6. コンブミックス: ユーザーがコンプレッションのかかっていないドライ信号をコンプレッション済みのウェット信号と組み合わせてより自然なサウンドのコンプレッションを実現
7. レシオ: 適用されるコンプレッションの量をコントロール (「同時押し」も可能)
8. メーター: GR … ゲインリダクションレベルを表示、+4 … 出力レベルが +4dB で VU メーターが 0 を表示、+8 … 出力レベルが +8dB で VU メーターが 0 を表示

リアパネル:



9. 電源 IEC 入力
10. 電圧セクター: ご使用の地域に適した電圧を設定 (日本国内では必ず「115V」に設定してお使い下さい)
11. バランス XLR 出力
12. RCA ステレオリンク: ステレオリンクには標準 RCA ケーブルを使用
13. バランス XLR 入力